

令和 6 年 度

幼稚園教員資格認定試験

教科及び教職に関する科目(Ⅱ)

注 意 事 項

受験者は、下記の注意事項に従うこと。それ以外の注意事項は全て試験監督者の指示によること。

1. 試験監督者の「始め。」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 氏名、受験番号を「令和 6 年度 幼稚園教員資格認定試験 解答カード」(以下、「解答カード」という。)の指定された欄に必ず記入してください。
3. 受験番号をマークしてください。
4. 「解答カード」の中で特に受験番号の欄の記入及びマークを間違えると失格になるので注意してください。
5. 解答は、全て「解答カード」の解答欄にマークで記入してください。問題冊子に答えを書いても無効です。
6. マークは必ず黒鉛筆(HB)を使用して、枠内にきちんと記入してください。
訂正する時は、プラスチック製消しゴムで完全に消してください。また、「解答カード」を曲げたり折ったりしてはいけません。
「解答カード」が汚れた場合や折れてしまった場合は、試験監督者に「解答カード」の交換を申し出てください。
7. この試験の解答時間は、「始め。」の合図があってから 50 分です。
8. 試験が終わるまで退室できません。 [マーク例]
9. 試験監督者の「やめ。」の合図があったら、直ちにやめてください。 (よい例) ●
10. 下書きには問題冊子の余白を使用してください。
11. 試験終了後、問題冊子を必ず持ち帰ってください。 (悪い例) ○ × ⊕ ⊙

問 1 次の文章は、「幼稚園教育要領」(平成 29 年文部科学省告示第 62 号)の「第 1 章 総則 第 1 幼稚園教育の基本」の一部である。文章中の空欄 ① ～ ③ に当てはまる語句の組合せとして最も適切なものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

幼児期の教育は、生涯にわたる ① の基礎を培う重要なものであり、幼稚園教育は、学校教育法に規定する目的及び目標を達成するため、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。

このため教師は、幼児との信頼関係を十分に築き、幼児が身近な環境に主体的に関わり、環境との関わり方や意味に気付き、これらを取り込もうとして、② したり、考えたりするようになる幼児期の教育における ③ を生かし、幼児と共によりよい教育環境を創造するように努めるものとする。

	①	②	③
ア	人格形成	創意工夫	見方・伝え方
イ	人間形成	創意工夫	見方・考え方
ウ	人格形成	試行錯誤	見方・考え方
エ	人間形成	試行錯誤	見方・伝え方

問 2 「幼稚園教育要領」(平成 29 年文部科学省告示第 62 号)の「第 1 章 総則 第 2 幼稚園教育において育みたい資質・能力及び『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』」に示された内容の一部として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

イ 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。

ウ 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

エ 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で実践したり、友達同士で表現を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

問 3 次の①～④の文は、「幼稚園教育要領」(平成 29 年文部科学省告示第 62 号)の「第 2 章 ねらい及び内容 健康 3 内容の取扱い」に示された内容の一部である。各文の正誤(○×)の組合せとして最も適切なものを、下の解答群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ① 十分に体を動かす気持ちよさを体験し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにすること。
- ② 体を動かす楽しさを味わい、自分の体を大切にしようとする気持ちが育つようにすること。
- ③ 生活に必要な習慣を身に付け、次第に責任をもって行動できるようにすること。
- ④ 生命を大切にする気持ち、公共心、探究心などが養われるようにすること。

[解答群]

	①	②	③	④
ア	○	○	×	×
イ	○	×	○	×
ウ	×	○	×	○
エ	×	×	○	○

問 4 「幼稚園教育要領」(平成 29 年文部科学省告示第 62 号)の「第 2 章 ねらい及び内容 環境 2 内容」に示された内容として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ。
- イ 日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ。
- ウ 生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ。
- エ 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。

問 5 次の文章は、「幼稚園教育要領」(平成 29 年文部科学省告示第 62 号)の「第 3 章 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項」の一部である。文章中の空欄 ① ～ ③ に当てはまる語句の組合せとして最も適切なものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

家庭や地域での幼児の ① も考慮し、教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動の計画を作成するようにすること。その際、地域の人々と連携するなど、地域の様々な ② を活用しつつ、多様な ③ ができるようにすること。

	①	②	③
ア	実態	人材	体験
イ	実態	資源	遊び
ウ	生活	人材	遊び
エ	生活	資源	体験

問 6 次の文章は、『幼稚園教育要領解説』(平成 30 年 2 月文部科学省)の「第 1 章 総説 第 3 節 教育課程の役割と編成等 5 小学校教育との接続に当たっての留意事項」の一部である。文章中の空欄 ① ～ ③ に当てはまる語句の組合せとして最も適切なものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

子供の発達と学びの連続性を確保するためには、① を手掛かりに、幼稚園と小学校の教師が共に幼児の成長を共有することを通して、幼児期から児童期への② を理解することが大切である。すなわち、子供の発達を③ 視点で捉え、互いの教育内容や指導方法の違いや共通点について理解を深めることが大切である。

	①	②	③
ア	幼稚園教育において育みたい資質・能力	成長の過程	長期的な
イ	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」	成長の過程	接続期の
ウ	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」	発達の流れ	長期的な
エ	幼稚園教育において育みたい資質・能力	発達の流れ	接続期の

問 7 次の文章は、『幼稚園教育要領解説』(平成 30 年 2 月文部科学省)の「第 2 章 ねらい及び内容 第 3 節 環境の構成と保育の展開」の一部である。文章中の空欄 ① ～ ③ に当てはまる語句の組合せとして最も適切なものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

幼児一人一人の ① や取り組み方、環境への関わり方などを正しく把握するためには、 ② をよく知った上で、幼児の活動にいつでも参加しようとする姿勢をもち、幼児の ③ に目を向け続けていることが必要である。その上で、教師は、幼児の発達や興味関心に応じつつ、発達に必要な経験を満たす可能性をもつ環境を構成しなければならない。

	①	②	③
ア	活動の意味	ものの性質	内面の動き
イ	活動の意味	素材の特徴	多様な動き
ウ	活動の流れ	素材の特徴	内面の動き
エ	活動の流れ	ものの性質	多様な動き

問 8 次の①～④の文は、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(平成 30 年 3 月内閣府・文部科学省・厚生労働省)の「第 1 章 総則 第 3 節 幼保連携型認定こども園として特に配慮すべき事項」に示された内容の一部である。各文の正誤(○×)の組合せとして最も適切なものを、下の解答群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ① 園児の一日の生活全体の連続性を考慮して、保護者の様々な思いを受け止め、尊重しながら、緊密な連携を図り、指導計画に反映させることが必要である。
- ② 指導計画は、月ごとに個別の計画を立てることを基本として、園児の状態や季節の変化などにより、月ごとの区分にも幅をもたせつつ、計画的かつ集団生活を重視した保育を心掛けることが大切である。
- ③ 夕方以降の時間帯においては、園児一人一人のおおよその迎えの時間を把握し、家庭との生活の連続性を考慮し、よりよい生活のリズムで保護者に園児を引き渡すことができるように遊びや活動の流れをつくることが求められる。
- ④ 5 歳頃の園児に関しては、小学校就学後の生活も見通し一日の生活のリズムを形成していくことが必要であることから、保護者と連携を図りながら、一年間の流れの中で園児の心身の健康の状況に応じて、午睡のない生活を行っていくことが大切である。

[解答群]

	①	②	③	④
ア	×	×	○	○
イ	○	×	○	×
ウ	×	○	×	○
エ	○	○	×	×

問 9 次の①～④の文は、『幼児理解に基づいた評価』(平成 31 年 3 月文部科学省)の「第 1 章 幼児理解に基づいた評価の意義 1. 幼児理解と評価の考え方」に示された幼児理解の考え方に関する内容である。各文の正誤(○×)の組合せとして最も適切なものを、下の解答群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ① 何歳にはこのような姿であるというような一般化された幼児の姿を基準として、優れているか劣っているかを評定することが求められる。
- ② 幼児が今、何に興味をもっているのか、何を実現しようとしているのか、何を感じているのかなどを捉え続けていかなければならない。
- ③ 幼児を理解するとは一人一人の幼児と直接に触れ合いながら、幼児の言動や表情から、思いや考えなどを理解しかつ受け止め、その幼児のよさや可能性を理解しようとするものである。
- ④ 日ごろのきめ細かい観察を基本に、面接など適切な方法を用いて、一人一人の幼児を客観的かつ総合的に認識することが求められる。

[解答群]

	①	②	③	④
ア	○	×	×	○
イ	○	×	○	×
ウ	×	○	○	×
エ	×	○	×	○

問10 次の文章は、『幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開』（令和3年2月文部科学省）の「第1章 指導計画作成に当たっての基本的な考え方 4. 指導計画の意義 (1) 指導計画の基本」の一部である。文章中の空欄 ① ～ ③ に当てはまる語句の組合せとして最も適切なものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

幼稚園生活を通して、個々の幼児が幼稚園教育の目標を達成していくためには、まず、教師が、あらかじめ幼児の発達に必要な経験を ① ，各時期の発達の特性を踏まえつつ、教育課程に沿った指導計画を作成して ② を行うことが必要です。そして、具体的な指導においては、あらかじめ立てた計画を念頭に置きながらそれぞれの実情に応じた ③ をすることが求められます。

- | | ① | ② | ③ |
|---|-----|--------|--------|
| ア | 計画し | 発展的な指導 | 柔軟な指導 |
| イ | 見通し | 継続的な指導 | 柔軟な指導 |
| ウ | 計画し | 継続的な指導 | 計画的な指導 |
| エ | 見通し | 発展的な指導 | 計画的な指導 |

問11 次の①～④の文は、『指導と評価に生かす記録』(令和3年10月文部科学省)の「第1章 専門性を高めるための記録の在り方 2. 保育の記録の意義と生かし方」の一部である。各文の正誤(○×)の組合せとして最も適切なものを、下の解答群ア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ① 記録から評価の視点に気付き、自分自身の指導を省察しようとするならば、記録を読み返すことが重要です。
- ② 教師の年齢構成の幅が広い園では、話し合いが活性化します。
- ③ 日々の遊びや生活の記録は、過去から現在へ、そして未来へと幼児の発達や学びを連続的に捉えることを可能にします。
- ④ 園の遊びや生活の様子を伝えるための記録は、幼児、教師の間の学びをつなぐ手段として活用できるものです。

[解答群]

	①	②	③	④
ア	○	○	×	×
イ	×	○	×	○
ウ	○	×	○	×
エ	×	×	○	○

問12 幼児の発達の遅れなどを心配する保護者から相談を受け、その幼児の知能や発達の検査を行う場合、適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 田中ビネー知能検査V
- イ WAIS-IV知能検査
- ウ 新版K式発達検査 2020
- エ K-ABC II

問13 「幼稚園教育要領」(平成 29 年文部科学省告示第 62 号)の「第 2 章 ねらい及び内容 表現」では、「幼児の自己表現は素朴な形で行われることが多い」と示されている。この特性を踏まえ、幼児が「音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう」ようになるために必要な教師の援助として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 幼児が生活の中で風の音や雨の音などに心動かしている姿に共感し、幼児一人一人の感性を受け止めるようにする。
- イ 幼児の素朴な自己表現は、音楽、造形、身体による演技などを取り混ぜた未分化な方法でなされることが多いことから、幼児が正しい発声や音程で歌うこと、楽器を正しく上手に演奏できる技能を身に付けられるような音楽的な活動へ導くことが必要である。
- ウ 幼児の素朴な表現を受け止めることで、幼児が自分の思いを音や声、身体の動きなど、日常的な行為として自由に表現できるようにする。
- エ 必要に応じて様々な歌や曲が聴ける場、簡単な楽器が自由に使える場などを設けて、音楽に親しみ楽しめるような環境を工夫することが大切である。

問14 次の文章は、教師が、幼児の素朴な表現を生かしつつ、より豊かな表現となるように工夫した指導の様子である。「バチック」の技法の説明として最も適切なものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

初めて雪が降った日、幼児は思わず園庭に飛び出し、雪を手で受け止めたり、走り回ったりした。満足して室内に戻ると、材料棚にある白の画用紙を取り出し、白のパスで雪の降る様子を絵に描き表した。この幼児の心を動かした雪への思いを受け止め、さらに、その雪が鮮やかに浮かび上がるように「バチック」の技法を取り入れ、働き掛けた。

- ア 画用紙を濡らしたスポンジで湿らせ、その上に絵の具を含ませた筆を置き、にじませていく。
- イ 幼児の描いた絵の上に、多めの水で溶いた絵の具の色水を素早く塗り、パスの部分弾かせる。
- ウ 幼児の描いた絵の上から、絵の具を含ませた筆を勢いよく振り、色を飛び散らせる。
- エ 画用紙の上に、他の素材を切って貼っていく。

問15 「幼稚園及び特別支援学校幼稚部における指導要録の改善について」(平成30年3月30日付け29文科初第1814号文部科学省初等中等教育局長通知)に示された「幼稚園幼児指導要録に記載する事項」として適切でないものを，次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 指導に関する記録

指導に関する記録は，1年間の指導の過程とその結果を要約し，次の年度の適切な指導に資するための資料としての性格をもつものとする。

イ 指導の重点等

個人の重点は，当該幼児の指導について，年度当初に1年間を見通し設定した，特に重視する点を記入すること。

ウ 指導上参考となる事項

最終年度の記入に当たっては，特に小学校等における児童の指導に生かされるよう，幼稚園教育要領第1章総則に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用して幼児に育まれている資質・能力を捉え，指導の過程と育ちつつある姿を分かりやすく記入するように留意すること。

エ 教育日数

1年間に教育した総日数を記入すること。この教育日数は，原則として，幼稚園教育要領に基づき編成した教育課程の実施日数と同日数であり，同一年齢の全ての幼児について同日数であること。